The Japan Lung Cancer Society

来のLFTと診断された．当院で過去同様に手術にてLFTと診断された2症例を加え報告した．

46．当院における胸膜中皮腫の臨床的検討

佐世保市立総合病院内科
黒木美鈴，吉塚直人
夫津木要二，水兼隆介
荒木　潤，浅井貞宏
同　外科　南　寛行，中村　譲
長崎大第2内科　河野　茂

当院における胸膜中皮腫10例の臨床的検討を行った．良性2例，悪性8例であり，悪性のうち2例は限局型であり，手術で良好な結果が得られた．びまん性の胸膜中皮腫に対し種々の治療がなされたが，効果なく予後不良であった．

47．術前化学療法が奏功し手術的に切除し得た悪性縦隔腫瘍の1例

直方中央病院外科
山田和典，中村賢二，真鍋靖史
小南達矢，藤原　博
同　内科　西本好徳，栗田幸男
浜の町病院外科　加藤雅人

症例は29歳男性．主訴は咳嗽，呼吸困難．胸写で胸水貯留を指摘され，当院紹介入院．大量の右胸水と約13cmの腫瘍を認めた．胸水細胞診と腫瘍針生検は組織型不明の悪性細胞で，AFP 43,549ng/ml，hCG 59,000ng/mlと著明高値の為，悪性胚細胞性腫瘍と診断した．4クールの化学療法(CBDCA, VP16, IFM)後，腫瘍縮小・胸水消失・腫瘍マーカー低下し，外科的に切除した．術後病理診断は，未熟奇形種だった．術後8ヵ月で再発は認めない．

48．気管狭窄をきたした胸腺ホジキン病の1例

アルメイダ病院胸部外科
一万田充俊，安江和彦
岩田英理子
同　内分泌科　伊東康子
同　血液内科　小野敬司
同　病理部　森内　昭

前縦隔腫瘍が気管を圧排狭窄し，呼吸困難をきたした18歳女性に緊急手術で腫瘍を摘出した．腫瘍は胸腺から発生したホジキン腫瘍で結節硬化型であった．胸腺原発ホジキン病は稀な症例であったので報告した．

49．胸腔鏡補助下ミニ開胸により摘出し得た心膜嚢腫の1例

久留米第一病院外科
那須賢司，磯辺　真，田中寿明
山崎義哉，田中真紀，枝国節雄

縦隔嚢胞型腫瘍は，悪性率，浸潤度は低いと思われ，侵襲の少ない手術が求められる．今回，右心横隔膜角の心膜嚢腫を経験した．画像上，悪性の可能性に乏しく，胸腔鏡とミニ開胸を行い腫瘍を摘出した．手術には，通常の手術器具を用いることができ，被膜を破ることなく，安全，容易に摘出操作を行うことができた．

50．胸膜中皮腫症例の検討

大分県立病院胸部外科
田川　努，内山貴堯，山岡憲夫
山本　聡，松本桂太郎
同　病理　辻　浩一

14例の胸膜中皮腫の治療成績を検討した．男性7例，女性7例，年齢は24～77歳(平均51.6歳)．限局性11例(10例は孤立性線維性腫瘍(SFT)で1例は線維肉腫)は，無症状8例で2例低血糖を呈し切除で消失した．全例切除し，2例は胸腔鏡下に切除でき，最近の手術法の第一選択と考える．線維肉腫例とSFT悪性例の計2例は再発死亡した．びまん性3例の死亡した2例の予後は5，14ヵ月と不良だった．1例は胸腔鏡下胸膜生検で診断し有用と考える．

51．同側肺異組織型肺癌の1切除例

鹿児島大第1外科
安楽真樹，柳　正和
下高原哲朗，愛甲　孝

症例は70歳男性，呼吸苦を主訴にCT精査したところ，右下葉S6に扁平上皮癌を疑う腫瘤を，右上葉に腺癌を疑う結節を認め，右下葉切除＋右上葉部分切除術を施行した．

当科多発癌症例を検討したところ，多発癌は388例中8例(1.8%)，その内異組織型は3例(0.5%)であった．8例中6例は扁平上皮癌の関与を認め，B.I.高値例であり，他の報告とも一致する結果であった．

52．担癌期間3年を経過後，二期的切除となった同時性両側肺癌の1症例

福岡大第2外科　稲田一雄
吉永康照，白石武史，岡林　寛
岩崎昭憲，川原克信，白日高歩

初回手術時，同時性両側肺癌を疑いながら確診得られず，対側病変を3年間経過観察し，最終的に手術施行した症例を経験した．この症例における3年間の担癌期間を考慮すると，左右病巣の悪性度の相違が予想された．

53．4重複癌を切除し得た肺癌症例の1例

久留米大外科
真栄城兼誉，田山光介
高森信三，林　明宏，白水和雄

症例は56歳男性．1990年7月，直腸癌に対し直腸離断術を施行．1992年7月，右肺下葉に2個の腫瘍を認め右下葉切除を行い，扁平上皮癌(T2N1M0病期II)と腺癌(T2N0M0病期I)の肺多発癌と診断した．その後1995年6

NII-Electronic Library Service